

布の糊抜きは染色の効果に影響するところ大であり、染色の準備工程として大切なものである。

糸又は布に使用する糊料には種々あるが、近時その用途を広めつつある合成糊料についてその糊抜き効率を研究した。合成糊料としてはポリビニールアルコールなるゴーセノールを試料とし、完全鹼化、部分鹼化、又重合度の異なるものにつき実験を行った。糊抜き剤として、水及び二三の界面活性剤を用い浴温、浸漬時間などを変えて観察した。第4報においては、糊抜き効率を糊抜き後の布の硬さから評価したが、本実験において沃素沃化カリの0.08Nを試薬としその呈色反応から浸出液中の糊料の量を比色により算出した。比色はベックマン型島津光電分光々度計により波長  $470\text{m}\mu$  にて  $-\log T$  (光学的密度) を測定することにより行った。

その結果、部分鹼化のものは完全鹼化のものよりも糊抜きが容易であり、又浴温及び浸漬時間にも関係することがわかった。たとえば、部分鹼化、重合度 2000 のゴーセノール 1% 糊液で糊付けした布を水  $90^{\circ}\text{C}$  において糊抜きした場合、最初の1分間で殆んど糊抜きが行われた。